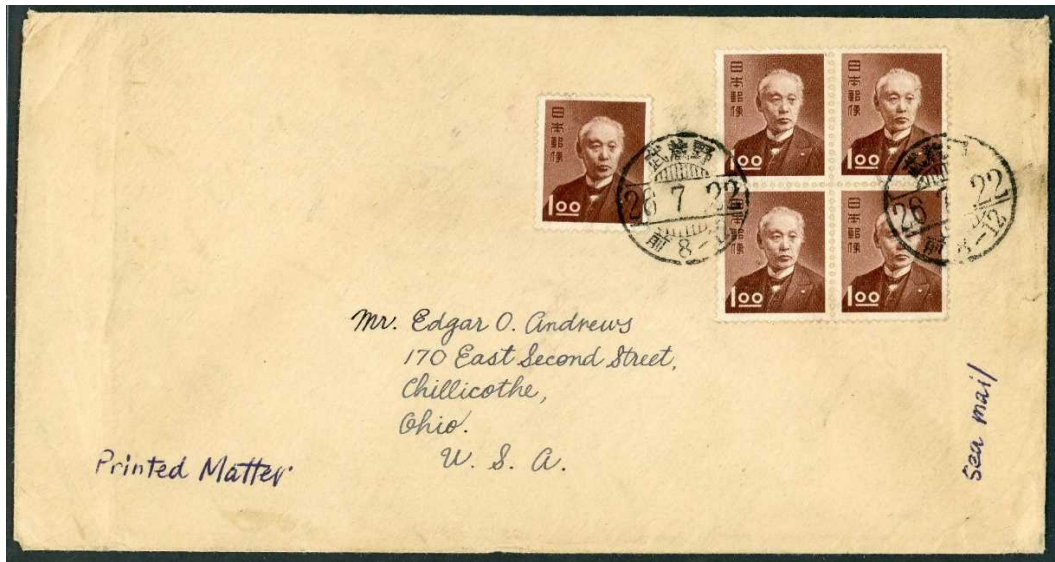


銭位 1 円前島の最初期使用例

永吉 秀夫



外信船便印刷物(料金 5 円) 武蔵野 S26(1951). 7. 22 → 米国

令和の今日まで70年以上にわたって使われている1円普通切手「前島密」、文字の入れ方が異なる切手が5代にわたって発行されています。その初代が1951年4月14日発行の「銭位前島」(ゼロつき)です。この発行日は同年の郵便週間初日にあたり、この切手4枚を組み合わせた小型シート(右図)が、郵便80年の記念切手として同時に発行されています。この普通切手自体、郵便80年を記念してそれまでの凸版印刷の新昭和切手「1円前島」をグラビア化したものとも言えそうです。



この切手の発行時点では郵便料金表に1円という料金は存在せず、単位額面切手としてさまざまな混貼用としての用途しかありませんでした。どうしてもこの切手を必要とする場面も、ほとんどありませんでした。半年後の11月1日の料金改訂まで半年間の封書8円時代における使用例は、意外に入手しにくいものです。

紹介品は、この封書8円時代に5枚まとめて5円切手代用で使用した外信印刷便です。この5円料金は同年12月1日の改訂で消えたので、このような使用例も簡単に入手できるものではありません。雑多な混貼カバーと比べれば、ルックスもずっとベターです。

この初代1円切手は、封書10円時代になってから、低料3種便や第4種点字便の料金に適合するようになりました。この料金はその後10年近く続くのですが、翌年8月に銭位のゼロを除去した円位前島に改版されたため、銭位前島は短命で終わりました。それでもその使用例としては、封書10円時代になってからのものが入手しやすいです。特に4円年賀葉書を年賀期間終了後に使うための1円加貼便が、この切手の最も入手しやすい使用例となっています。ただし初年1952年の年賀葉書は特例で旧料金2円だったので、翌年1953年(昭和28)のものが主となります。